

中山七里

飛騨木曽川国定公園にある中山七里は、険しい山々や奇岩、桜やツツジ、紅葉など四季折々の景色が訪れる人々を惹きつけます。下呂温泉街の南、三原地区と金山地区の間にある全長 28 キロメートルの溪谷です。

国道 41 号線と JR 高山本線が中山七里の輪郭に沿って走っています。その名前は文字通り「山の中の 7 里」を意味します（1 里は 4 km に相当）。武将金森長近（1524 年-1608 年）が現在の下呂と金山の間の交通を改善するために、困難な山岳地形を貫く 7 里の通路を設けたことを意味します。1586 年、金森は覇者である豊臣秀吉（1537 年-1598 年）の命を受け、最新の採掘技術を活用してこのプロジェクトを実行しました。

飛騨川と久野川の合流点近くにある景勝岩「羅漢岩」は、その形が涅槃を成就した仏陀である羅漢に似ていることから名づけられました。さらに南には滑らかな白い岩が広がり、牙の形をした岩が際立っている牙岩エリアがあります。

中山七里へは、飛騨金山駅、焼石駅、下呂駅からアクセスできます。この溪谷は下呂の町を通り北の御嶽山と南の金山を結ぶ下呂湯めぐり街道の一部です。